



体を動かしながらフレーズを学ぶ児童ら=いずれも津市北立誠小で

授業開始前の午前八時四十分、英単語やフレーズをリズムに乗せた「チャンツ」が校内放送で響く。一年生から六年生の各教室では、児童たちが一斉にアルファベットと単語を口ずさむ。

校では廊下に一口フレーズや歌の歌詞が掲示されるなど放送時間以外も日常的に英語に親しむ環境が整えられていく。

津市・北立誠小 全校あげて英語教育

北立誠小学校 前身校が1873年（明治6年）に四天王寺内に設立。1947年に立誠小に校名を変え、53年に北立誠小、南立誠小に一分され、現在の場所に移転した。学区は三重大のほか、古い街道集落と大規模な住宅団地が混在し、3月現在の児童数は518人。

The image shows a classroom bulletin board with various educational materials. A large green poster features a speech bubble containing the text 'I'm a... I'm a...'. Below it are several smaller cards with text in English, such as 'I'm a teacher', 'I'm a doctor', and 'I'm a...'. There is also a small drawing of a person. The board is mounted on a wall with other classroom elements visible in the background.

「北立誠ダイレク」^トと呼ぶ
る同校の英語学習の一こま。
分かりやすく、楽しい放送を
モットーに、火曜日はチャン
ツ、水曜日は一口フレーズ、
木曜日は英語の歌を流す。同



一〇〇〇年度、全国の小学校で三年生から外国語活動が始まり、五年生から英語が教科になる。市は英語学習に注力する指定校を毎年定めており、一八年度に指定された同校は一九年度も取り組みを継続した。

画のチャンツに合わせて身みりを交えてフレーズを練習したり、音声を聞いて書き取りをしたりと、にぎやかに授業が進む。前田蓮君(一)は「ゲームで遊んで楽しみながら覚えられる。あいさつを英語で言えて、会話もできるように

「ある日の六年生の授業は「自分の夢」がテーマ。担任教諭と米国出身の外国語指導助手（ALT）マシュー・ヘグストロムさん（三〇）が連携しながら教える。児童たちは動

りを交えてフレーズを練習したり、音声を聞いて書き取りをしたりと、にぎやかに授業が進む。前田蓮君(こ)は「午後で遊んで楽しみながら覚えられる。あいさつを英語で言えて、会話もできるようになりました」と話す。

このチャンツ、実はヘグフロムさんのオリジナルだ。動画の素材となる写真から音楽、歌詞まで自作し、音声を吹き込んで編集。速すぎず遅すぎず、タイミングの調整が難しいのだという。数分の動画制作に八時間かかることがある。

自分の街を表現する授業は、「TSU（津）からはじまるABC」のチャンツを伝つて名所や特徴を英語で言ふようとした。ヘグストロムさんは「テキストには載つてない、具体的な内容を盛り込んでいる。子どもたちは堅く熱心で、やりがいがあります」と笑顔を見せる。

あいさつしたり、帰り道に英語の歌を歌つたりと、児童たちに徐々に浸透してきていた。谷本博之校長は「英語を好きで知りたい気持ちが強く、学校生活に生かしていく子どもが多い。新年度以降も取り組みを継続していく」と意欲を見せる。(本間貴子)